

**全国在宅療養支援診療所連絡会 第3回全国大会 プログラム別詳細**

<b>内容</b>	シンポジウム
<b>タイトル</b>	社会学的視野からの概論を踏まえて東京都政策の Next Step を考える
<b>日時</b>	平成28年3月12日 14:10-15:50
<b>会場</b>	第2会場(503)
<b>座長</b>	鈴木 央(鈴木内科医院)
<b>演者</b>	長谷川 敏彦(一般社団法人未来医療研究機構 代表理事) 榑 美智子(東京都福祉保健局 高齢社会対策部 介護保険課長) 新倉 吉和(東京都福祉保健局 医療政策部 地域医療担当課長)
<b>企画趣旨・概要</b>	<p>東京都においても在宅医療推進は新たなステージに入りました。東京都医師会の全面的な協力の中で在宅医療推進が進められるようになりつつあります。行政においても、在宅医療が高齢社会の地域包括ケアにおける重要なツールであることが理解されつつあります。さらに、地域医療構想への議論が始まりました。病院機能の問題には一見関係がないように思われますが、この議論においては在宅医療という機能が非常に重要な役割を占めるはずで、東京都は療養病床が少なく、このまま国方針通りに進めたとしたら、多くの急性期病院が療養病床に転床しなければならなくなるかもしれません。しかし、在宅医療が自宅や施設で療養病床的な機能をより多く担うとすれば、議論の方向性はどのようになるでしょう。このような議論も踏まえながら、在宅医療推進の NextStep はどのように進めるべきか考えていきたいと思えます。</p> <p>まず重要なことは、それぞれの医療機関や施設の役割を明確にすること、そしてそれぞれの役割に応じたケアサイクルを地域で活性化することが求められるはずで、この観点から、長谷川敏彦先生に未踏高齢社会をいかに対応するのか、社会学の視点で論じていただきます。</p> <p>そのうえで、東京都福祉保健局職員にそれぞれの分野からお話しをいただくことにしています。東京都における在宅医療推進策はどのように進めていくのか、さらに訪問看護を充実させるために東京都では様々な試みを行っています。</p> <p>大都市圏の在宅医療、地域包括ケアは極めて重要な課題です。東京が達成できなければ日本では達成できないといっても過言ではありません。東京都がその目標をクリアするために NextStep としてどのようなことが必要なのか。皆さまのご参加をお待ちしております。</p>

(敬称略)